

薩摩硫黄島の火山活動解説資料（平成 26 年 2 月）

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められませんが、硫黄岳火口では噴煙活動が続いており、火山灰等の噴出する可能性があります。また、火口付近では火山ガスに注意してください。

平成25年7月10日に噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 2月の活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図1、図2-①③）

硫黄岳山頂火口では、白色の噴煙が火口縁上400m以下で経過しました。

同火口では、夜間に高感度カメラで火映¹⁾を時々観測しました。



図1 薩摩硫黄島 噴煙の状況（2月24日、岩ノ上遠望カメラによる）

1) 赤熱した溶岩や高温の火山ガス等が、噴煙や雲に映って明るく見える現象です。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成26年3月分）は平成26年4月8日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、京都大学及び国土地理院のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図10mメッシュ（火山標高）』を使用しています（承認番号：平23情使、第467号）。

・地震や微動の発生状況（図 2-②④）

火山性地震の月回数は 180 回（1 月：153 回）と、少ない状態で経過しました。

継続時間が短く振幅の小さな火山性微動を 4 回（1 月：なし）観測し、継続時間の月合計は 2 分でした。火山性微動を観測したのは 2013 年 1 月 10 日以来です。

・地殻変動の状況（図 3、図 4）

GNSS¹⁾ 連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

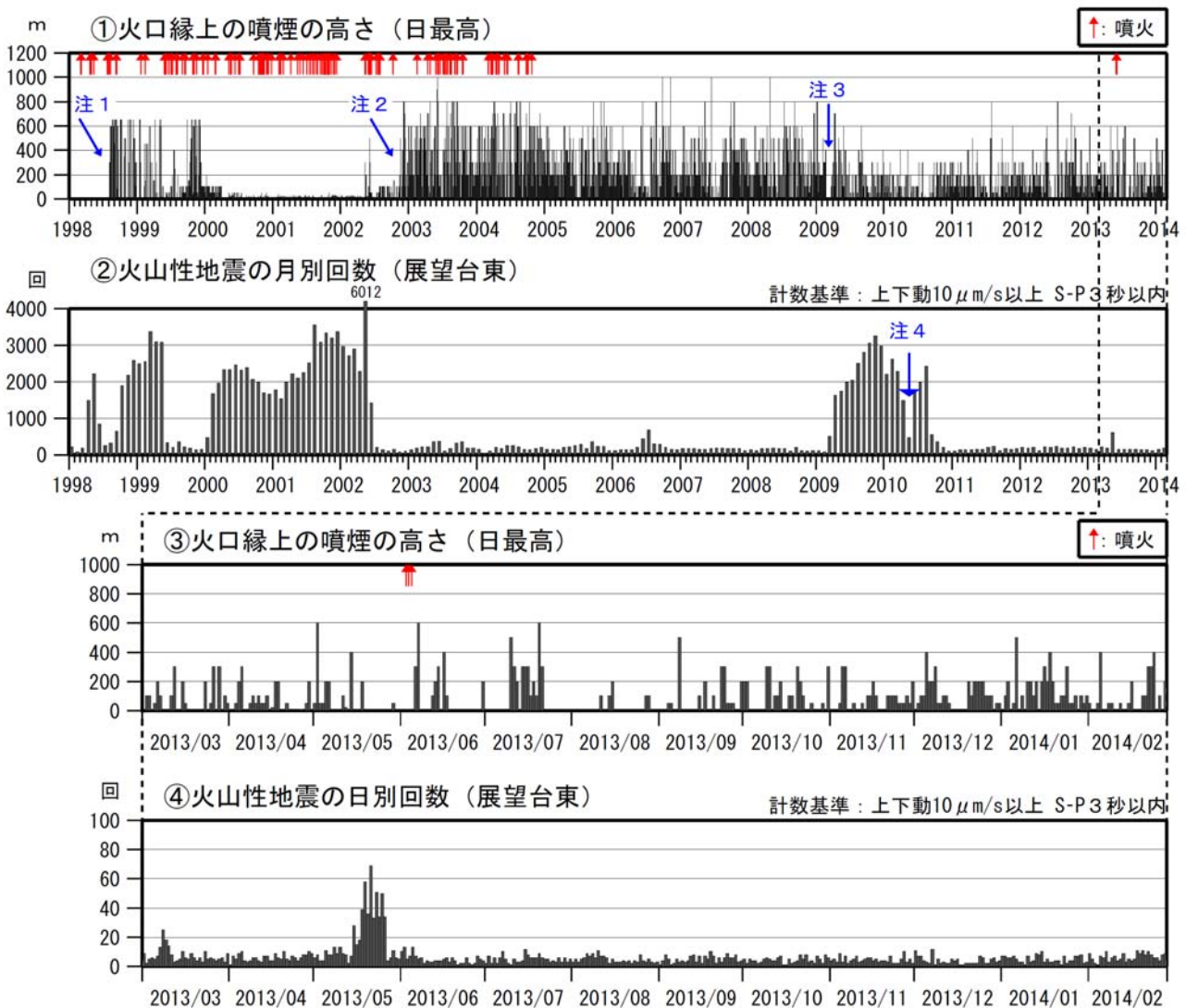


図 2 薩摩硫黄島 火山活動経過図（1998 年 1 月～2014 年 2 月）

< 2 月の状況 >

- ・白色の噴煙が火口縁上 400m 以下で経過しました。
- ・火山性地震の月回数は 180 回（1 月：153 回）と少ない状態で経過しました。

注 1 1998 年 8 月 1 日：三島村役場硫黄島出張所から気象庁へ通報開始。

注 2 2002 年 11 月 16 日：気象庁が設置した監視カメラによる観測開始。

注 3 2009 年 2 月 23 日～3 月 21 日：遠望カメラ障害のため噴煙は不明。

注 4 地震計障害のため火山性地震及び火山性微動の回数が不明の期間があります。

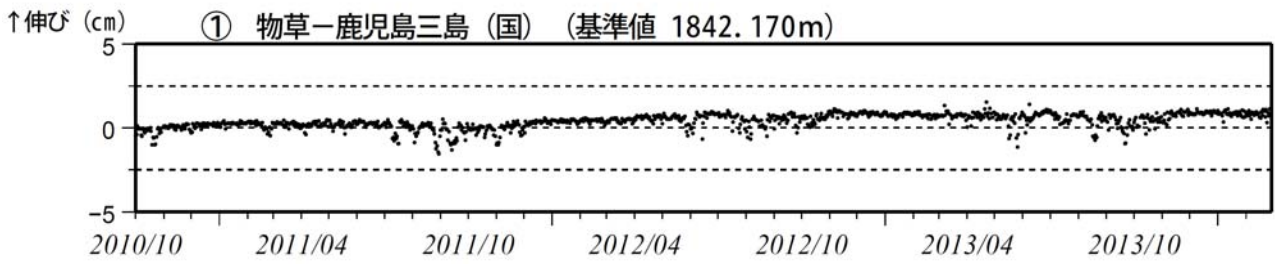


図 3 薩摩硫黄島 GNSS連続観測による基線長変化（2010年10月～2014年2月）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この基線は図 4 の①に対応しています。

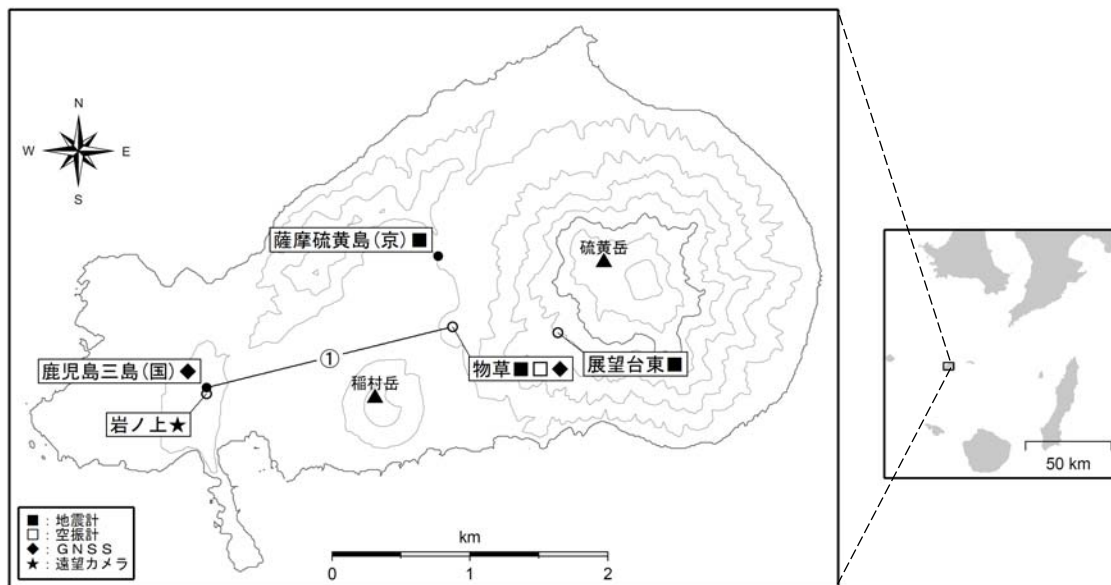


図 4 薩摩硫黄島 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (京)：京都大学、(国)：国土地理院